

Love Story

February - March 2020

こ ん な 本



読 ん で み て

take free No. 81

目次

Love Story 1

MIETAN 本つなぎ 第9回 6

Book design の世界 vol.11 10

ちょこちょこ日記 #21 12



『きみが見つける物語 恋愛編』

有川 浩 ほか 著

角川文庫編集部 編

角川書店 913.68||A 71

5人の人気作家が描いた恋の物語を集めた一冊。甘い、苦い、辛い...さまざまな恋愛フレーバーを味わってみてください。



『ハリネズミ乙女、はじめての恋』

令文ヒロ子 著

KADOKAWA 913.6||R 25

コノカは、ふと立ち寄ったペットショップで白いハリネズミ・白ハリくんと話ができることに気づく。しかも大阪弁で！優しい気持ちになれる一冊です。



『黄色い目の魚』

佐藤多佳子 著

新潮社 913.6||Sa 85

それぞれの時間を積み重ね、海辺の高校で出会ったみのりと悟。二人の会話がみずみずしくまっすぐに描かれた青春小説。



『百瀬、こっちを向いて。』

中田永一 著

祥伝社 913.6||N 23



心の真ん中に触れる4つの恋愛小説。「人間レベル」がおそろしく低い僕が、百瀬と付き合っているふりをするようになって...



『君が降る日』

島本理生 著

幻冬舎 913.6||Sh 38



出会いと別れを繊細に描いた3編を収録。切なさがひたひたと心にしみてきます。つらい別れもいつか忘れてしまう日がくるのかな。



『好き、だった。』

はじめての失恋、七つの話』

有川 浩 ほか 著

ダ・ヴィンチ編集部 編

メディアファクトリー 913.68||A 71



7人7色の失恋を描いたアンソロジー。「好きな人が手に入らないことを失恋というのなら、僕は最初から失恋していたのだと思う」(『失恋の演算』有川浩)



『あのとき始まったことのすべて』

中村航 著

角川書店 913.6||N 37

中学校の卒業以来、10年ぶりに再会した岡田くんと石井さん。あのときのこと、懐かしく思い出す。さわやかで切ない恋の物語。



『この青い空で君をつつもう』

瀬名秀明 著

双葉社 913.6||Se 57

早季子宛てのはがきが、猿の形に折られていた。亡くなった和志が何かを伝えたがっているの？過去と今と明日を大切に思える作品。



『ラブコメ今昔』

有川浩 著

角川書店 913.6||A 71

制服ラブコメ短編集。読むと思わずニヤついてしまいそうな、色んなタイプの恋愛模様が描かれた、甘くて苦くて熱い一冊です。



『劇場』

又吉直樹 著

新潮社 913.6||Ma 71

東京で夢を追いかける永田と沙希の物語。「こんな当たり前のことが、なんでできへんかったんやろうな」不器用さがぐっと心に刺さりま

す。2020年4月映画公開予定。



『マチネの終わりに』

平野啓一郎 著

毎日新聞出版 913.6||H 66

クラシックギタリストの蒔野と国際ジャーナリストの洋子は、出会った時から惹かれ合う。時間の流れの中、すれちがう二人。2019年11月映画公開。



『愛なき世界』

三浦しをん 著

中央公論新社 913.6||Mi 67

洋食屋の見習い・藤丸陽太は、宅配先の大学・植物学研究室で本村紗英と出会う。植物に全てを捧げる本村に想いを寄せる藤丸。様々な愛にあふれた一冊です。



Love Story



MJETAN
本つなぎ



三重短生の
おすすめ本をリレーして
三重短を本でつなげたい！

ふじさん
経商コース
1年

五月さん
経商コース
1年

ー今日はよろしくお祈いします。早速ですが、五月さんからおすすめの本の紹介をお願いします。

五月 よろしくお祈いします。『たやすみなさい』(岡野大嗣著／書肆侃侃房)という本を紹介しします。短歌の本です。2019年の10月に出た本で、表紙がキラキラしててかわいいです。Twitterを見ていたら、短歌のよさがわかるようになってきて。作者の岡野さんがTwitterをしていて、本の紹介にこの中の一首を出してて。

ーTwitterを通じた言葉との出会い、いいですね。

五月 購入サイトに飛んだらレビューもよくて、短歌の本って買ったことがなかったので買ってみたら、余白が多くてびっくりしました。小説を読んでいくよりも、一首一首見てこういうことなのかなと考えてから読んでいくので、小説を読むよりも考える事が多くて疲れしました。(笑)

ーそうなんですね！

五月 一回目見た時に自分はこう思ったけど、もしかしたら違う考え方もあるかもしれん、とかいろいろ考えて。この短歌は二通りくらい考え方ができるんか、すごいなっていうのがたくさんありました。

ー余白がある意味を感じますね。印象に残っている短歌はありますか？

五月 「たった今うれしい夢をみていたようれしかったのだけがわかるよ」初めてTwitterで読んだ歌です。

ーすごい！短歌っておもしろいですね。

五月 夢を見た後って、何も覚えてないけど気持ちだけは残ってるじゃないですか。どんな夢を見ていたか思い出せないけど、めっちゃなんかいい夢みたわとか、そういうのをよくこんな短い言葉につめられるなと思って。すごいですよね。

ー言葉にしようとも思っていないことが、言葉になって見えてくるとすごいですね。

五月 絶対経験したことがあるけど、正直気にも留めていなかったようなことが、文字になるとわかるという共感もありますし、自分はどうでもいいと思ってたことも、こういう見方をしたらちょっと特別なことのような感じがしてきます。

ー続いて、ふじさんのおすすめ本の紹介をお願いします。

ふじ 『文学少女インセイン 塔京異聞』(保坂歩著／紫槻さやかイラスト／カラサヤサボウ原案／PHP研究所)という本です。この小説の中で一番特徴があるのは、文豪の人たち太宰治とか梶井基次郎とかの作品にでてくる登場人物をモチーフにした人物が出てくることです。『やまなし』のクラムボンがいたり、『吾輩は猫である』の吾輩がいたり、『若きウエルテルの悩み』のウエルテルや『人間失格』の大庭さんがいたりします。主人公がめっちゃ本が好きな子なんですけど、人とかかわるのが苦手で、ラブレターをもらったら、そのラブレターを添削して男の子に返すような子なんです。ある日、図書館で本を読んでいたら、違う空間に行っちゃって、その空間を抜け出すために世界を進んでいく物語です。この本を知ったのが中学生くらいだったんですけど、その時は文豪の作品を読んだことがなくて、登場人物が文豪の作品に出てくるということも全然分からなかったんですよ。でも高校に行って、国語の授業で梶井基次郎の『檸檬』が出た時に、あ！これ『文学少女インセイン』にでてきた作品だ！って。それで国語の授業がめっちゃ楽しくなりました。



ーつながったんですね！

ふじ 本をあまり読まなかったんですけど、この登場人物の背景にはこういう物語があったんだとか、『人間失格』読んでみようかなとか、他の作品を読んでみようかなというきっかけになった本です。

ーすごいですね。中学生の時に一度取り込んだものが、高校生になって色んな方向に広がっていったんですね。

ふじ そうですね。もう一回読んだ時に、これはこういう意味だったんだ！って、新しい発見が読むたびにあって、それがすごくおもしろくなって。

ーこの本とはどんなきっかけで出会ったんですか？

ふじ この本は、ボーカロイドの歌からできた小説なんです。原案のカラスヤサボウさんの「文学少女インセイン」って歌が先にあって、妹がその歌が好きだったんです。そこから知りました。

ーそうなんです。いろいろな出会いがありますね！ お二人のおすすめ本、それぞれに広がりがあって素敵ですね。



● 3つの質問 ●



ー続いて3つの質問です。①今はまっているもの、教えてください。

五月 音楽を聴くことです。

ー最近どんな曲を聞いていますか？

五月 音楽番組でスピッツさんと椎名林檎さんの特集をしているのを見て、影響を受けて聞いています。

ーふじさんは音楽は聞きますか？

ふじ はい。歌手で言ったら、米津玄師さんと星野源さんが好きです。星野源さんの「POP VIRUS」のライブに行きました。めっちゃ楽しかったです。

ー五月さんはライブに行ったりしますか？

五月 RADWIMPSのライブに行きました。アルバムの中にライブの先行申し込みが入ってて、いいなあと思っていたら、地元でやるって決まったので友達と行きました。地元に来るなんてめったにないんです。ラッキーなことに前の方の仕切りだったので、ステージと客席の距離が近くて肉眼で見えました！

ーそれはいいですね！続いてふじさん、お願いします。

ふじ 私は写真を撮ることです。一眼レフで撮ります。高校の時、写真部だったので、そのときから好きなんです。

ー写真を撮りに出かけたりしますか？

ふじ 和歌山県にあるポルトヨーロッパというところに写真を撮りに行きました。外国の建物がある遊園地です。すごくよかったです。

ーヨーロッパの街並みが再現されているんですね。行ってみたいです。

ー前回のさきこさんからの質問です。②好きな食べ物は何ですか？

五月 たまごやきです。うちのはつゆが入ってて、甘くないたまごやきが好きです。

ー一番好きなのはうちのたまごやきですか？

五月 はい。妹の作るたまごやきが一番おいしいです。なぜか妹だけ教えられてました。(笑)

ふじ 私はアイスクリームが好きです。

ー冬のアイスクリームもいいですね。何アイスが好きですか？

ふじ 夏だったらチョコミントが好きで、冬は濃厚なチョコみたいなのが好きですね。一年通してめっちゃ食べるのは抹茶味です。抹茶味が一番好きで、いつでもどの季節でも食べます。

五月 私も抹茶味が好きです。

ーあさこさんからの質問です。③宝くじが当たったらどうしますか？

五月 旅行に行きます。オーストラリアに行ってみたいです。ヨーロッパも行ってみたいな。

ふじ ヨーロッパのどこに行きたい？

五月 美術館に行ってみたい！

ふじ 私は半分くらいは貯金します。半分は買い物とか旅行とか行きたいですね。マンション買うとかもいいですね。安定した収入が欲しいです。(笑)

ー今日は楽しいお話をたくさんありがとうございました。

五月・ふじ ありがとうございました。



MIETAN ●五月さん● 今回の本つなぎ

『たやすみなさい』

(岡野大嗣著 / 書肆侃侃房)

●ふじさん●

『文学少女インセイン 塔京異聞』

(保坂歩著 / PHP研究所)



次の2人へ
本つなぎ。
次回もお楽しみに♪

Book design

の世界

vol.11

川名 潤さん

本を選ぶ時、表紙や本のデザインに惹かれて選ぶことがあります。本を開くとそこに書いてある「装丁」という言葉と名前。

本のデザインをする方を装丁家やブックデザイナーと言います。この連載では本のデザインや装丁から、本を楽しみたいと思います。

第11回目は、川名 潤さんです。

川名潤さんは、デザイン事務所prigraphicsを経て、2017年に川名潤装丁事務所を設立されました。文芸や漫画の装丁、雑誌のエディトリアルデザインを中心に活躍されています。



装画：たえ

まず『トラペジウム』(高山一実著/KADOKAWA/2018年/913.6||Ta 56)をご紹介します。アイドルを目指す少女の10年間を描いた、乃木坂46の高山一実さんの小説デビュー作です。キラキラと輝く姿に惹かれる装画はたえさんによるものです。「仮フランス装」という表紙の上下左右を折り返す方法で製本され、「天アンカット」という本の天(上面)を断裁しない不揃いの状態で、味わいを感じられる装丁になっています。



『宮辻薬東宮』(宮部みゆきほか著/講談社/2017年/913.6||Mi 71)は、前の作品を読んで次の作品を書きつないだりレーミステリーアンソロジーです。著者の名前の頭文字からなるタイトルは、一文字一文字に少しずつアクセントがついています。物語のはじまりに期待が膨らむ装丁です。



装画：陣崎草子


748||A 81)をご紹介します。左に開くと赤色、右に開くと青色、真ん中には黄色。写真の魅力がより伝わる印象的なデザインです。ソフトカバーにすることで、写真作品を見るということが身近に感じられる装丁となっています。



マンガのブックデザインについてのインタビューの中で、川名さんはこう語られています。「ブックデザイナーの仕事は、とても幅が広いんです。単行本の表紙だけを作る場合もあるし、雑誌の連載の時から関わって、タイトルの題字を作ったりする場合もあります。最も深くかわる場合には、それこそ、絵と物語以外、マンガの見栄えをよくするために何でもやるって感じです。」「どこまで関わるかはいろいろです。マンガが映画の脚本だとすれば、その脚本を元に映画監督みたいにあれこれできる仕事とも言えると思います。(中略)やってみると自分でいろいろ工夫できて、とてもおもしろい仕事ですよ。凝り性の人に向く仕事かもしれませんね。」

作品が一番かっこよく見えるように工夫された川名潤さんの装丁。ぱっと見ただけでは気づかないかもしれないけれど、その工夫が味わいとなり、作品の魅力につながっています。これからもさまざまな装丁の工夫に注目していきたいと思います。

参考・引用文献：『心にひびくマンガの名言【第2期】④生きる力がわく』(学研プラス/2016年)



ちよこちよこ日記 #21 「アンソロジー」

今回の特集「Love Story」の中で、アンソロジーをご紹介します。ところで、アンソロジーって何のことか分かりますか？アンソロジーについて調べてみました。

『集英社世界文学大事典』（集英社）によると、「アンソロジーはギリシャ語でアントロギアといい、元来は＜花を集めたもの、花束＞を意味したが、ビザンティン帝国時代以降、＜詞華集＞すなわちさまざまな詩の集成を意味するようになった。」とあります。アンソロジーのはじまりが「詩の花束」だったとは！とても素敵です。

また『現代実用外来語辞典』（ぎょうせい）には、「名詩、文の選集。詞華集。詩、散文、戯曲などを、作品の形式、テーマといった内容や、国別、時代別といった尺度で抜粋し集めた選集。」とあります。

調べたことを踏まえて、特集で紹介したアンソロジーを説明すると、「複数作者の短編小説をテーマに沿って集めた本」と言えるでしょうか。

さまざまな作品が集められたアンソロジーでは、作者や選者がそのテーマをどう解釈したか、それぞれの独自の視点からテーマを味わうことができます。思いもよらない発見があるのがアンソロジーの魅力。ぜひ楽しんでみてください。

こんな本読んでみて No.81

2020年2月1日 発行

編集・発行 三重短期大学附属図書館

〒514-0112 三重県津市一身田中野157

<http://www.library.tsu-cc.ac.jp/>